

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都渋谷区代々木 3-51-8
園名	渋谷区立代々木保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

年齢ごとに自然や光などの探究活動を通して、探究心、好奇心を育てる

<テーマの設定理由>

自然に関しては、園内の木々、草花、近隣地域の自然物など身近なものから、さまざまな発見や気づきがあることを学ぶ。光に関しては、いろいろな材料、教材を使い、光の不思議さに気づき、探究心や想像力を育てていく。

### 2. 活動スケジュール

令和7年5月～令和8年2月まで実施。(月1回程度)

年度当初から、1～5歳児クラスそれぞれで、年間の探究活動を計画し、副園長がコーディネーターになりながら進めるようにした。探究活動は昨年度からの継続であるので、それも引き継ぐことにした。具体的には、各クラスの探究活動日時、場所、ねらい、使用教材を記入した表を作成し、それぞれのクラスがどんな活動をしているかを把握し、カリキュラム反省や定例会議で報告しあった。光の探究は年間通して、自然の探究は秋を中心に保育活動に取り入れた。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

光の探究では、保育室に、懐中電灯やピタゴラス、カラーグラスなどの教材を棚にセットし、子供たちがすぐに手にとって使えるようにした。また、スクリーンなど関連した教材もすぐに設定できる場所に収納した。自然の探究では、散歩先で自然物を収集し、それらとスタンドライトなどを組み合わせて活動を楽しんだ。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

1歳児、2歳児、4歳児、5歳児クラスでは、光のテーブルやアクリルボックス、鏡のシートなどを活用し、光をテーマとした探究活動を行った。  
一方、3歳児クラスにおいては、自然物や園庭用テーブルを用い、自然をテーマとした探究活動を計画した。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

例えば、1歳児クラスでは光との出会いの活動で、テラス側で太陽の光の影や、天井に写る光といった日常より視野を広く持った気づきがあった。保育者は「○○してごらん、こっちは何かな？」といった先取りした声掛けはせずに、まず子供が気づくまで見守り、子供からの声で初めてそれについて応じ、子供の発見に共感することで子供の満足感、充実感につながるようにした。幼児クラスは、友だちの気づきに共感する姿もあった。2歳児クラスの保育参観では、光の探究コーナーを設定して親子でも探究活動を楽しめるようにした。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

小さいクラスの子供でもたくさんの気づきがあることがわかった。子供一人ひとりイメージが異なり、改めて個性が発見できた。少人数での活動で、一人ひとりの言葉に丁寧に関わることが出来たし、一人ひとりの言葉を聴くことで、どのようなイメージを子供が持っているのか理解しやすくなった。環境によって子供の発見、気づきは無数に広がることを感じた。環境の大切さを改めて感じた。子供たちの自由な発想が楽しく、さらに膨らむような活動の展開をしていきたい。